合格 漢文攻略

漢文の読解

ステップ1 訓読

● **訓読とは**

訓読とは、日本語とは語順が異なっている漢文を、日本語の読み方に変えて読むことをいいます。

白文(はくぶん)…中国人が書いた文章や漢詩。

〔例〕 国破山河在。

訓読文(くんどくぶん)…白文に訓点をつけた文。訓点とは①送り仮名と②返り点のことです。

〔例〕 国破(レテ)山河在(リ)。

書き下し文(かくだし)…訓点に従い漢文を日本語として読んだもの。送り仮名は歴史的仮名遣いのままひらがなに直す。

〔例〕 国破れて山河在り。

漢文を読む上で押さえておくことは次の二点です。

① **送り仮名**

1 必ずカタカナ表記をする。
2 漢字の右下に漢字よりも小さくつける。
3 歴史的仮名遣いで書く。

大器(ハ)晩成(ス)。

カタカナで右下に小さくつける。

② **返り点**

1 レ点 …一文字、上に返る時に使う。
2 一・二点 …二文字以上、上に返る時に使う。
3 一レ点（いちれ点） …レ点を優先する。

読(ミ)書(レ)学(ブ)道(ヲ)。 読む順序は 2 1 4 3

見(ル)南(二)山(ヲ)一。 読む順序は 3 1 2

1 5 ㊁ 2 4 ㊀レ 3

ステップ2

返り点・送り仮名をつける

訓読文（くんどくぶん）

国破レテ山河在リ。

↑↓

書き下し文（かくだ）

国破れて山河在り。

書き下し文にする際のルール

一　漢字はそのまま漢字にし、送り仮名はひらがなにする。

○大器ハ晩成ス。　→　大器は晩成す。

二　返り点がある時は、返り点に従う。

○レ点　望ム二山月ヲ一。　→　山月を望む。

○一・二点　帰ル二故郷ニ一。　→　故郷に帰る。

三　仮名遣いは、歴史的仮名遣いのままにする。

○思フ二故郷ヲ一。　→　故郷を思ふ。

○有レバ備ヘ無シヒレ憂ヒ。　→　備へ有れば憂ひ無し。

四　次の漢字は書き下し文に直す際に、ひらがなにする（助動詞や助詞の場合のみ）。

★例

①歳月ハ不レ待タレ人ヲ。　→　歳月は人を待たず。

②己ノ所レ不ルレ欲セ〜。　→　己の欲せざる所〜。

③人之罪也。　→　人の罪なり。

1 不＝ず　不＝ざ（ら・り・る・れ）

2 也＝なり

3 可＝べし

4 自＝よ（り）

5 之＝の

6 乎＝や

7 者＝は

8 与＝と

五　置き字…訓読しない漢字（書き下し文にする時に、書かない）

▼①而　②於　など

①学而時習之。　→　学んで時に之を習ふ。

②苛政猛於虎。　→　苛政は虎より猛なり。

■■練習問題■■

1　次の□を漢字と考えて、読む順序を数字で記入しなさい。

例　2　1

①　レ　二　一

②　二　一　レ

③　レ　二　一

④　レ　二　一

⑤　二　一レ

2　次の文を書き下し文にしなさい。

例　明君制民之産。　→　明君は民の産を制す。

(1)　王欲行之。　□

(2)　盡人事待天命。　□

(3)　楚人有涉江者。　□

(4)　何不釈呉而患越乎。　□

3　次の漢文の――線部はどのように読むか。あとの□に当てはまる書き下し文を書きなさい。

(1)　古之学者為己、今之学者為人。

古の学者は己の為にし、今の学者は□。

□

(2)　一夕軽雷落万糸。

一夕の軽雷□。

□

(3)　時有微涼不是風。

□是れ風ならず。

□

4　次の漢文の――線部はどのような順番で読むのが正しいか。〔例〕にならって□に数字を書きなさい。

〔例〕読レ書ヲ。　↓　読レ書　2　1

(1)　遙見ニ人家ヲ花便入ル（はるカニテアレバすなはチ）　↓　遙　□　見ニ　□　人　□　家ニ　□

(2)　常ニ観ニ世間ノ不定ヲ、（ジテ）　↓　常　□　観ニ　□　世　□　間　□　不　□　定ニ　□、

■■練習問題■■

1　次の白文に、書き下し文に従って返り点・送り仮名を付けなさい。

①　父為子隠　（父は子の為に隠す）

②　民無信不立　（民、信無くんば立たず）

③　何以利吾国　（何を以て吾が国を利せん）

④　以為失其事也　（以て其の事を失ふと為せばなり）

⑤　為後義先利　（義を後にして利を先にするを為す）

2　次の漢文の――線部に、書き下し文の読み方になるように返り点をつけなさい。

(1)　蓬莱定不遠

蓬莱定めて遠からず

(2)　口吹風車手弄瓦

口に風車を吹き手に瓦を弄ばしむるを

(3)　此何不為福乎。

此れ何ぞ福と為らざらんや。

3 次の文の――線部が〈　〉のような読み方になるように返り点・送り仮名を正しくつけたものをア～エから選び、記号で答えなさい。

王戎、七歳のとき、嘗与諸小児遊　〈嘗て諸小児と遊び〉、

ア 嘗与諸小児遊　イ 嘗与諸小児遊

ウ 嘗与諸小児遊　エ 嘗与諸小児遊

4 次の漢文を書き下し文にしなさい。

(1) 帰国。

(2) 思故郷。

(3) 歳月不待人。

(4) 一寸光陰不可軽。

(5) 人不学、不知道。

(6) 天地者万物之逆旅。

(7) 他山之石、可以攻玉。

(8) 吾十有五而志於学。

解答

■■練習問題■■

1　次の□を漢字と考えて、読む順序を数字で記入しなさい。

例

2	レ
1	

①

2	レ
1	
3	
6	ニ
4	
5	一

②

4	ニ
1	
2	
3	一
6	レ
5	

③

1	
6	ニ
2	
4	レ
3	
5	一

④

5	レ
4	ニ
1	
2	
3	一
6	

⑤

1	
6	ニ
2	
3	
5	一レ
4	

2 次の文を書き下し文にしなさい。

例 明君制民之産。 → 明君は民の産を制す。

(1) 王欲行之。

王之を行はんと欲す。

(2) 盡人事待天命。

人事を盡くして天命を待つ。

(3) 楚人有涉江者。

楚人に江を渉る者有り。

(4) 何不釈呉而患越乎。

置き字…書き下し文にするときには書かない。

何ぞ呉を釈して越を患へしめざるや。

---

3 次の漢文の――線部はどのように読むか。あとの□に当てはまる書き下し文を書きなさい。

(1) 古之学者為己、今之学者為人。

古の学者は己の為にし、今の学者は□。

人の為にす

(2) 一夕軽雷落万糸。

一夕の軽雷□。

万糸を落とす

(3) 時有微涼不是風。

□是れ風ならず。

時に微涼有り

4　次の漢文の――線部はどのような順番で読むのが正しいか。〔例〕にならって□に数字を書きなさい。

〔例〕読レ書ヲ。　↓　読レ書　2　1

(1)　遥見ニ人家ヲ花便入ル（はるカニテアレバすなはチ）　↓　遥　1　見ニ人家ニ　4　2　3

(2)　常ニ観ニ世間ノ不定ヲ、（ジテ）　↓　常　1　観ニ世　6　2　間　3　不　4　定ヲ、　5

練習問題

1　次の白文に、書き下し文に従って返り点・送り仮名を付けなさい。

①　父為レ子隠　（父は子の為に隠す）

②　民無レ信不レ立　（民、信無くんば立たず）

③　何以利ニ吾国一　（何を以て吾が国を利せん）

④　以為レ失ニ其事一也　（以て其の事を失ふと為せばなり）

⑤　為ニ後レ義先ロ利　（義を後にして利を先にするを為す）

2　次の漢文の――線部に、書き下し文の読み方になるように返り点をつけなさい。

(1)　蓬莱定不レ遠

蓬莱定めて遠からず

(2)　口吹ニ風車一手ニ弄レ瓦ヲ

口に風車を吹き手に瓦を弄ばしむるを

(3)　此何不レ為レ福乎。

此れ何ぞ福と為らざらんや。

3 次の文の――線部が〈　〉のような読み方になるように返り点・送り仮名を正しくつけたものをア～エから選び、記号で答えなさい。

王戎、七歳のとき、嘗与諸小児遊　〈嘗て諸小児と遊び〉、

ア 嘗与諸小児遊　イ 嘗与諸小児遊
ウ 嘗与諸小児遊　エ 嘗与諸小児遊

★書き下し文の「と」は、「与」。

エ

4 次の漢文を書き下し文にしなさい。

(1) 帰国。　★太字は、平仮名にしよう。

国に帰る

(2) 思故郷。

故郷を思ふ

(3) 歳月不待人。

歳月は人を待たず

(4) 一寸光陰不可軽。

一寸の光陰軽んずべからず

(5) 人不学、不知道。

人学ばざれば、道を知らず

(6) 天地者万物之逆旅。

天地は万物の逆旅なり

(7) 他山之石、可以攻玉。

他山の石、以て玉を攻くべし

(8) 吾十有五而志於学。

吾十有五にして学に志す